

# JOA NEWS



2024 .1



## We love this lifelong sport!

2023年度全日本ミドル・ロング選手権大会

2-4 p

2024

年頭所感

2 p

Report

世界大会報告

[フットOジュニア・シニア、MTBO、トレイルO]

5-7, 9-10 p

Report

2023年度日本学生選手権 [スプリント・ロング競技部門]

8 p

Information

JOAからのお知らせ

10-11p

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましても、心新たに一年のスタートを切られたことかと存じます。

昨年度の後半は、新型コロナ禍を意識することなく生活し、オリエンテーリングができた久しぶりのシーズンとなりました。3年半の間、様々な制約の中で活動を続けてこられた会員、オリエンティアの皆様には敬意を表するとともに、再び心置きなくオリエンテーリングができるようになったことを共に喜びたいと思います。

大変な3年半でしたが、一方で収穫もありました。オンライン会議の普及は組織運営の効率化に大いにつながりました。行動制限もあった2020年にスタートしたセミナーはすでに50回以上を数え、競技技術から運営のスキルまで多くの資産を共有することに役立ちました。50回を迎えた全日本大会も多くのオリエンティアに支持され、海外、特にアジアから多くの選手を集める大会に成長しつつあります。JOAとしてもこうした資産を今後も活用し、日本のオリエンテーリングの発展に尽力する次第です。

年度の後半には副大臣就任に伴う堀井前会長の突然の辞任という新たなハードルが現れました。やむを得ないこととはいえ私たちにとって大きな痛手でしたが、これを乗り越えてゆきましょう。高い理想を忘れずに、目の前の一步一步を積み重ねてゆくことが大切だと思います。

さて本年は、対外的には、デフリンピック東京大会をはじめとして、いくつかの重要な国際大会の主管運営の準備をすすめてゆく年となります。オリエンテーリングの世界においても、日本の活動は国際社会とりわけアジア圏から期待されています。現在、アジア地区ではIOFの傘下となるアジア連盟設立の動きが具体化し、本年度のうちにはアジア連盟が設立される見込みです。会議の中で表明される日本のリーダーシップへの期待は大きく、競技・運営・組織の側面からこれに答えていくことが求められています。

一方、JOAの組織運営においては、財源の確保や地方会員の活性化などの難問が山積しています。有難いことに多くの皆様のご協力により、現状を維持しつついくつかの試みを行っておりますが、今後もさらに皆様のお知恵を拝借し、またご協力を賜りたく存じます。全てが多くの皆様のご助力の賜物であることを改めて肝に銘じ、協会一丸となって前進してまいります。

国際平和、自然環境が脅かされ、感染症への不安もぬぐい切れない中、心おきなく楽しめる日々の回復を願いつつ、今年も多くの感動を味わいに、共に自然の中へ出かけましょう。



副会長  
愛場 庸雅



副会長  
村越 真

### 堀井学代表理事会長の辞任について

日本オリエンテーリング協会会長・代表理事である堀井 学氏におかれましては、去る9月13日に発足した第二次岸田内閣において、内閣府副大臣に就任されました。それに伴い、今般当協会の理事を辞任されることになりました。その理由は、「国務大臣、副大臣及び大臣政務官規範」により、国務大臣等の在任期間中は営利企業の役職員の兼職、公益法人等の諸団体の役職員を兼職することを禁止されているためです。

堀井氏は、昨年6月より会長2期目に就任され、国際大会の誘致やJOC準加盟団体への昇格などに向けて今後の活躍が期待されていたのですが、本務である要職を優先せざるを得ない状況であり、当協会にとっては大きな痛手となりますがやむを得ないことと存じます。堀井氏におかれましては今後の本務でのご活躍を期待するとともに、引き続きオリエンテーリングというスポーツと当協会へのご理解、ご支援を賜りたいと存じます。

当協会の事業につきましては、当面の間会長が不在となり、副会長が会長業務を代行する形での運営となります。今後の人事に関しては理事会等で検討してゆく予定です。

## 第12回全日本選手権大会(ミドル・ディスタンス競技部門)

## 第50回全日本選手権大会(ロング・ディスタンス競技部門)

全日本大会実行委員会

2023年度の全日本オリエンテーリング選手権大会(ミドル/ロングディスタンス競技部門)は千葉県勝浦市を舞台に開催され、11月4日のミドル・ディスタンス競技部門は981名、11月5日のロング・ディスタンス競技部門は952名という多くの参加者を迎え無事開催することができました。

千葉県オリエンテーリング協会と共催での開催が実現し、同協会理事の平山遼太氏を実行委員長に迎え、千葉県南部に位置するあたたかな気候と豊かな海産物など魅力豊富な土地柄を生かした全日本選手権大会の開催となりました。複雑な地形が入り組み、細かな尾根が張り巡らされた中でのオリエンテーリングは、要求される技術レベルも高いものではありませんでしたが、昨年度までとはまた違った、オリエンテーリングのおもしろさを感じていただけたのではないかと思います。

近年World Ranking Eventとの併催を行っており、本大会では多数の海外選手の出場も目立ちました。中でも欧州で活躍するイタリアのScalet Riccardo選手とフランスのMaelle Beauvir選手は選手権クラスのトップ争いを繰り広げ、その走りは会場をわかせるとともに、日本の選手との交流もあり国際大会としての様相も垣間見ることが出来ました。

2024年度の全日本オリエンテーリング選手権大会は岐阜県恵那市にて開催予定です。(10ページに開催予告を掲載しています。) 多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

## ミドル競技部門 男子選手権者 谷川友太 選手



はじめに、全日本大会の開催にご尽力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

長く競技をしているとたまに良いこともあるもので、今回はミドル優勝、ロング3位という結果を得ることができました。日々の鍛錬の成果がこのような形で表れ嬉しく思います。今後もよりよいオリエンテーリングができるよう一層邁進していきます。

今回の全日本の勝浦は普段なかなか足を運ぶことのない場所ですが、モデルイベントからの3日間で宿の近くのいすみ鉄道や、実行委員長一押しのカキ屋さんなどにも訪れることができ、オリエンテーリング以外にも非常に充実した遠征になりました。

少し余談にはなりますが、既に次の全日本大会のために中野方の民泊を予約しました。来年も家族での参加を楽しみにしています。

## ミドル競技部門・ロング競技部門 女子選手権者 稲毛日菜子 選手

運営の皆さま、選手のみなさん、観戦応援してくれた方、今回も素晴らしい全日本大会をありがとうございました。

ミドルは昨年度失った優勝カップの奪還、ロングは2019年に逃した4連覇を達成することができました。今回は海外から参加してくれた選手も多く、ロングでは自分より世界ランク上位の選手もいたため、いつもとは違う緊張も感じながらレースに臨みました。仕上がりは最高の状態ではなかったけれど、ベストを尽くした走りでも嬉しかったです。

1年を通して日本ランキングについて話す機会も多くなったり、モデルイベントが開催され前週に隣接トレインで対策練習ができたこと、大会当日を含めてたくさんの時間全日本大会を意識して楽しませていただきました。

結果には満足していますがレース内容はまだまだ荒く「完璧」と思えるレベルは遠いので、次のレース目指してまた練習を重ねていきたいと思っています。



## ロング競技部門 男子選手権者 平岡丈 選手



まずは優勝することができてうれしいです。応援してくださった方々、声をかけてくださった方々、運営してくださった方々、ありがとうございました。全日本大会の個人的な位置づけとしては、昨年度で大学を卒業してインカレが終わり、シニアとして戦っていく中で結果を残したいと思い臨んだ大会でした。特に今回のトレインは、僕が主にトレーニングの地としている関西の地形と似ているということで、良い結果を狙いながら準備を進めていました。それがしっかり返ってきてとてもうれしく思います。今後の個人的な予定としては大学院を卒業した後、どのように競技と向き合っていくか読めない部分も多いのですが、とにかくオリエンテーリングが好きなので、引き続きトレーニングを続けながら来年度の世界学生選手権や、長い目で見たときにシニアの世界選手権へも出場できるように機会をうかがっていきたく思います。今後ともよろしくお願いします。

写真：北川賢也様、根岸 龍宏 様

# 成績 (抜粋)

## ミドルディスタンス競技部門

<b>M21E</b> 3.9km(↑310m)	<b>W21E</b> 3.3km(↑275m)
1 谷川 友太 0:36:18	1 稲毛 日菜子 0:39:08
2 平岡 丈 0:37:05	2 樋口 佳那 0:40:20
3 結城 克哉 0:37:20	3 阿部 悠 0:40:32
4 伊藤 樹 0:37:26	4 皆川 美紀子 0:41:51
5 石原 潮人 0:37:29	5 山岸 夏希 0:43:54
6 堀田 遼 0:37:54	6 増澤 すず 0:44:01
<b>M20E</b> 3.2km(↑250m)	<b>W20E</b> 2.6km(↑175m)
1 森 創之介 0:30:22	1 川瀬 智尋 0:30:47
2 鈴木 寛人 0:31:39	2 牧 依瑠香 0:33:24
3 早川 正真 0:32:42	3 兼子 照美 0:34:03
4 梶本 和 0:33:13	4 砂田 優萌子 0:37:23
5 堀井 聡一郎 0:34:36	5 山本 佳奈 0:39:59
6 寺嶋 謙一郎 0:35:48	6 中野 友貴 0:43:43
<b>M90A</b> 1.0km(↑45m)	<b>W35A</b> 2.5km(↑155m)
1 高橋 厚 0:55:54	1 半田 博子 0:40:46
<b>M85A</b> 1.1km(↑65m)	2 寺嶋 貴美江 0:42:05
1 石田 亘宏 0:52:50	3 西名 紗織 0:47:41
<b>M80A</b> 1.1km(↑65m)	<b>M21A1</b> 3.4km(↑300m)
1 河村 健二 0:18:54	1 山本 明史 0:37:15
2 小幡 昭次 0:27:31	2 根本 啓介 0:37:30
3 尾上 俊雄 0:32:13	3 松本 佳也 0:39:08
<b>M75A</b> 2.0km(↑110m)	<b>M21A2</b> 3.4km(↑300m)
1 鹿野 勤次 0:34:39	1 弓田 和生 0:37:12
2 前田 春正 0:42:52	2 市川 礼人 0:38:03
3 佐藤 政明 0:43:45	3 渡邊 寛希 0:38:18
<b>W75A</b> 1.1km(↑65m)	<b>W21A</b> 2.8km(↑215m)
1 今井 栄 0:27:39	1 橋 詩乃 0:40:40
<b>M70A</b> 2.5km(↑155m)	2 岩城 美奈 0:40:53
1 海老沢 正 0:37:18	3 菊池 美結 0:44:52
2 小林 二郎 0:39:15	<b>M21AS</b> 3.0km(↑255m)
3 大塚 校市 0:45:58	1 中村 憲 0:47:37
<b>W70A</b> 1.1km(↑65m)	2 徳増 宏基 0:50:43
1 植松 裕子 0:29:05	3 濱中 俊太郎 0:55:05
2 小野寺 はるみ 0:33:24	<b>W21AS</b> 2.5km(↑155m)
3 長瀬 朋子 0:35:44	1 辻 悠佳 1:13:50
<b>M65A</b> 2.5km(↑155m)	2 園木 ひとみ 1:17:07
1 小山 清 0:39:23	3 寺岡 倫子 1:18:57
2 愛場 庸雅 0:42:33	<b>M20A</b> 2.6km(↑190m)
3 出野 幹夫 0:44:03	1 牧戸 悠生 0:25:52
<b>W65A</b> 2.0km(↑110m)	2 新目 裕亮 0:26:24
1 成田 美奈子 0:50:09	3 梅園 雅史 0:27:46
2 高橋 明美 0:55:35	<b>W20A</b> 2.2km(↑135m)
3 大塚 ふみ子 1:18:46	1 佐塚 真奈 0:30:21
<b>M60A</b> 2.5km(↑155m)	2 小野塚 智美 0:30:54
1 福田 雅秀 0:30:20	3 太田 来和 0:33:41
2 早野 哲朗 0:33:25	<b>M18A</b> 2.2km(↑135m)
3 中島 克行 0:37:36	1 佐藤 慶明 0:27:36
<b>W60A</b> 2.0km(↑110m)	2 山口 侑真 0:29:52
1 宮川 祐子 0:26:07	3 阿部 慈央 0:39:08
2 和田 美千代 0:29:38	<b>W18A</b> 2.0km(↑110m)
3 宇野 明子 0:32:46	1 藤原 菜夏子 0:44:16
<b>M55A</b> 2.8km(↑215m)	2 小泉 七桜 0:44:52
1 田代 雅之 0:36:18	3 佐藤 果凜 1:20:05
2 柳澤 貴 0:37:06	<b>M15A</b> 2.0km(↑135m)
3 香取 伸嘉 0:39:18	1 宮治 明良 0:25:24
<b>W55A</b> 2.5km(↑155m)	2 小坂 唯慧 0:31:14
1 広江 望 0:42:33	3 鷲海 理仁 0:32:14
2 田垣 尚美 0:55:30	<b>W15A</b> 1.6km(↑105m)
3 吉田 しのぶ 1:06:33	1 椎名 皆咲 0:27:25
<b>M50A</b> 3.0km(↑255m)	2 柴橋 芽咲 0:30:42
1 山本 英勝 0:41:31	3 八木 響 0:31:54
2 本間 晃 0:42:25	<b>MAS</b> 3.0km(↑255m)
3 橋本 浩一 0:42:37	1 杉本 舜 0:38:34
<b>W50A</b> 2.5km(↑155m)	2 蔵田 真彦 0:39:41
1 美濃部 康世 0:42:49	3 飯野 雅人 0:40:16
2 清谷 千鶴 0:46:43	<b>WAS</b> 2.5km(↑155m)
3 泉田 みどり 1:12:52	1 坂巻 朱里 0:48:13
<b>M45A</b> 3.0km(↑255m)	2 吉澤 佳奈 0:51:23
1 大久保 裕介 0:42:43	3 飯田 涼芳 0:54:07
2 藤生 考志 0:44:16	<b>M12</b> 1.5km(↑85m)
3 源後 知行 0:44:37	1 水嶋 竜也 0:14:51
<b>W45A</b> 2.5km(↑155m)	2 清水 溪杜 0:17:00
1 須藤 友絵 0:48:30	3 篠谷 理仁 1:05:30
<b>M40A</b> 3.0km(↑255m)	<b>W12</b> 1.5km(↑85m)
1 森 竜生 0:42:06	1 石井 百花 0:13:37
2 内藤 愉孝 0:42:47	2 加藤 円和 1:09:51
3 伊藤 夏生 0:46:09	<b>W10</b> 1.2km(↑80m)
<b>W40A</b> 2.5km(↑155m)	1 源後 彩乃 0:17:55
1 高津 寿三鈴 1:06:59	2 石井 遥花 0:23:00
<b>M35A</b> 3.0km(↑255m)	3 勝田 有美 0:25:42
1 小暮 喜代志 0:44:53	
2 鳥居 正 0:46:07	
3 渡辺 達也 0:56:40	

## ロングディスタンス競技部門

<b>M21E</b> 10.3km(↑680m)	<b>W21E</b> 7.3km(↑480m)
1 平岡 丈 1:27:27	1 稲毛 日菜子 1:14:13
2 伊藤 樹 1:33:23	2 阿部 悠 1:21:03
3 谷川 友太 1:37:17	3 樋口 佳那 1:25:48
4 結城 克哉 1:37:33	4 山崎 葵 1:26:59
5 石原 潮人 1:38:58	5 山岸 夏希 1:28:05
6 本庄 祐一 1:40:09	6 松本 萌恵 1:30:55
<b>M20E</b> 6.8km(↑455m)	<b>W20E</b> 4.6km(↑250m)
1 森 創之介 1:05:12	1 中野 友貴 0:57:22
2 寺嶋 謙一郎 1:12:26	2 牧 依瑠香 0:58:06
3 藤原 考太郎 1:18:24	3 兼子 照美 1:00:06
4 柴田 日向 1:20:35	4 山本 美沙 1:03:26
5 早川 正真 1:21:22	5 砂田 優萌子 1:05:14
6 吉田 聖悟 1:22:29	6 川瀬 智尋 1:07:32
<b>M90A</b> 1.2km(↑70m)	<b>W35A</b> 4.2km(↑275m)
1 高橋 厚 1:22:10	1 大澤 貴子 1:11:26
<b>M85A</b> 2.3km(↑70m)	2 寺嶋 貴美江 1:15:03
1 石田 亘宏 1:50:00	3 池田 麻子 1:28:45
2 原田 憲夫 1:55:29	<b>M21A1</b> 7.5km(↑500m)
<b>W85A</b> 1.1km(↑70m)	1 大石 洋輔 1:27:09
1 石田 美代子 1:43:27	2 新 隆徳 1:27:58
<b>M80A</b> 2.3km(↑70m)	3 入江 崇 1:28:01
1 河村 健二 0:28:17	<b>M21A2</b> 7.4km(↑520m)
2 尾上 俊雄 0:37:45	1 前田 裕太 1:21:23
3 鈴木 榮一 0:45:30	2 川崎 拓巳 1:25:55
<b>M75A</b> 3.2km(↑170m)	3 森 清星也 1:26:17
1 鹿野 勤次 1:21:04	<b>W21A</b> 4.6km(↑310m)
2 佐藤 政明 1:25:10	1 吉田 菜々子 1:09:23
3 前田 春正 1:29:53	2 栗山 ももこ 1:13:00
<b>W75A</b> 1.2km(↑70m)	3 高野 澄佳 1:14:23
1 今井 栄 0:36:47	<b>M21AS</b> 4.6km(↑310m)
<b>M70A</b> 3.6km(↑225m)	1 徳増 宏基 1:04:53
1 海老沢 正 0:57:14	2 原 絵吾 1:06:00
2 小林 二郎 0:59:24	3 石山 良太 1:07:02
3 大塚 校市 1:06:19	<b>W21AS</b> 3.6km(↑225m)
<b>W70A</b> 2.3km(↑70m)	1 伊東 京香 1:02:08
1 植松 裕子 0:45:33	2 小林 美咲 1:04:38
2 長瀬 朋子 0:54:08	3 辻 悠佳 1:17:40
3 小野寺 はるみ 0:54:38	<b>M20A</b> 5.3km(↑300m)
<b>M65A</b> 3.6km(↑225m)	1 牧戸 悠生 0:59:15
1 愛場 庸雅 1:00:09	2 中嶋 啓太 1:04:10
2 奥山 景得 1:01:49	3 井村 真岳 1:04:10
3 小山 清 1:02:25	<b>W20A</b> 4.1km(↑235m)
<b>W65A</b> 2.3km(↑70m)	1 小野塚 智美 0:52:09
1 大塚 ふみ子 0:58:56	2 宮田 鈴子 0:53:45
2 高橋 明美 1:05:08	3 中西 澄海 0:56:12
<b>M60A</b> 4.2km(↑275m)	<b>M18A</b> 4.1km(↑235m)
1 村越 真 0:51:41	1 水野 舞人 0:45:22
2 吉田 勉 0:52:13	2 伊藤 拓生 0:47:05
3 福田 雅秀 0:53:19	3 畑田 裕志 0:47:48
<b>W60A</b> 3.2km(↑170m)	<b>W18A</b> 2.6km(↑120m)
1 宇野 明子 0:49:18	1 藤原 菜夏子 0:58:40
2 渡辺 加与美 0:59:49	2 佐藤 果凜 1:42:34
3 小林 正子 1:02:48	<b>M15A</b> 3.4km(↑150m)
<b>M55A</b> 4.2km(↑275m)	1 林 剛広 0:33:03
1 清水 尊司 0:57:58	2 宮治 明良 0:34:02
2 香取 伸嘉 0:58:21	3 鶴田 海 0:37:57
3 鶴岡 須彦 0:59:36	<b>MAS</b> 4.6km(↑310m)
<b>W55A</b> 3.2km(↑170m)	1 三浦 開登 1:06:31
1 広江 望 0:50:19	2 古殿 直也 1:07:49
2 金原 和泉 0:58:52	3 瀬尾 峻汰 1:12:28
3 田垣 尚美 1:00:24	<b>WAS</b> 3.6km(↑225m)
<b>M50A</b> 4.2km(↑275m)	1 藤田 奈津美 1:02:42
1 中堀 剛 0:59:22	2 吉澤 佳奈 1:06:55
2 佐賀 寛 1:02:26	3 坂巻 朱里 1:19:51
3 山内 亮太 1:02:32	<b>M12</b> 2.2km(↑55m)
<b>W50A</b> 3.2km(↑170m)	1 蜂谷 理仁 0:19:42
1 清谷 千鶴 1:04:11	2 水嶋 竜也 0:24:44
2 緒方 美智 1:24:20	3 清水 溪杜 0:30:06
3 泉田 みどり 1:38:57	<b>W12</b> 2.2km(↑55m)
<b>M45A</b> 5.7km(↑370m)	1 石井 百花 0:15:43
1 源後 知行 1:07:33	2 加藤 円和 1:54:07
2 石井 泰朗 1:11:19	<b>M10</b> 2.2km(↑50m)
3 藤生 考志 1:11:56	1 篠原 稜一朗 0:30:03
<b>W45A</b> 3.6km(↑225m)	<b>W10</b> 2.2km(↑50m)
1 高津 寿三鈴 1:39:08	1 勝田 有美 0:19:06
<b>M40A</b> 5.7km(↑370m)	2 源後 彩乃 0:24:02
1 内藤 愉孝 1:13:17	3 石井 遥花 0:29:26
2 森 竜生 1:17:39	
3 平沢 正紀 1:21:01	
<b>M35A</b> 5.7km(↑370m)	
1 水嶋 孝久 1:09:01	
2 小暮 喜代志 1:15:18	
3 渡辺 達也 1:29:54	

大会Webサイト





7月2～8日にルーマニアのBaia Mareで開催されたJWOC2023に、男女6名ずつのフルメンバーで挑みました。大きな変更点として、フォレストのミドル種目で予選がなくなり、代わりに男女混合チームで競うスプリントのミックスリレーが正式種目となりました。つまり、よりスプリント種目の比重が大きくなりました。そこで今回の選手選考では初めて、陸上3000mなどの走力基準タイムを設定し、代表選考会への出場条件としました。結果として今回は歴代でもっともフィジカルに優れた選手たちで構成されたチームとなり、6日で5種目のタフな大会を戦い抜いてくれました。

特筆すべき成績は、まず新種目である男女混合のスプリントリレーで出場32カ国中20位になることができました。トップチームとのタイム比でも112%であり、ヨーロッパの中堅国と対等に戦うことができたと言えます。リレー種目ではフォレストの男子も34カ国中22位、過去最高順位(21位)にこそ僅かに及ばなかったものの、タイム比で116%の見事な走りを見せてくれました。

そして、個人種目でもスプリントで寺嶋が57位(タイム比111%)、ロングで梶本が37位(タイム比117%)という快挙を達成。次回も出場資格のある二人の成績は、ほぼ不可能ではないかと考えていたレベルのもので、本当に驚き、嬉しいものでした。チーム全体としても、難しいコースに対して今できる実力を出し切ってくれた選手が多かったと思っています。毎年メンバーが入れ替わる難しさのあるJWOCですが、今回は選手たちから「もっと世界と戦える」と思わせてもらえました。



左から砂田、寺嶋、森、藤澤

## 成績 (抜粋)

### スプリントリレー

1 ハンガリー	49:44
20 日本(砂田-寺嶋-森-藤澤)	56:22

### スプリント女子

1 Rita Maramarosi (HUN)	15:13
117 砂田優萌子(日本)	21:13
121 藤澤ゆい(日本)	21:40
123 山本美沙(日本)	21:50
127 田谷夏姫(日本)	21:59
138 中野友貴(日本)	24:03
MP 牧依瑠香	

### スプリント男子

1 Anselm Reichenbach (GER)	15:47
57 寺嶋謙一郎(日本)	17:44
95 森創之介(日本)	18:28
118 石原潮人(日本)	19:03
124 早川正真(日本)	19:10
126 梶本和(日本)	19:14
141 藤原考太郎(日本)	19:53

### ミドル女子

1 Henriette Radzikowsk (SUI)	25:42
118 牧依瑠香(日本)	42:13
122 山本美沙(日本)	43:44
135 砂田優萌子(日本)	49:17
140 中野友貴(日本)	55:03
142 田谷夏姫(日本)	56:04
MP 藤澤ゆい(日本)	

### ミドル男子

1 Hannes Mogensen (SWE)	24:39
103 寺嶋謙一郎(日本)	34:33
134 森創之介(日本)	39:56
140 早川正真(日本)	40:48
143 梶本和(日本)	42:08
148 藤原考太郎(日本)	42:39
162 石原潮人(日本)	48:11

### ロング女子

1 Lucie Dittrichova (CZE)	57:28
98 山本美沙(日本)	1:30:43
110 藤澤ゆい(日本)	1:37:12
112 中野友貴(日本)	1:38:56
115 牧依瑠香(日本)	1:40:59
122 田谷夏姫(日本)	1:51:25
127 砂田優萌子(日本)	1:59:53

### ロング男子

1 Jakub Chaloupsky (CZE)	1:11:20
37 梶本和(日本)	1:27:48
96 寺嶋謙一郎(日本)	1:39:00
119 森創之介(日本)	1:47:28
122 石原潮人(日本)	1:49:55
135 藤原考太郎(日本)	2:01:16

### フォレストリレー女子

1 ハンガリー	1:20:44
23 日本(牧-山本-中野)	2:14:34

### フォレストリレー男子

1 チェコ	1:34:33
22 日本(梶本-寺嶋-森)	1:53:29



アジアから参加のもう1チーム、香港と一緒に(最下段右から2人目は早川)



左から森、寺嶋、梶本

写真：ジュニア委員会



JWOC2023 Webサイト

2019年以来のフォレスト競技のみの世界選手権(WOC2023、7月12日～16日@スイス)が開催されました。2022年秋の現地トレーニング、WOC2005(@愛知)のロングコース再走、本番1ヶ月前の現地でのレース、その後本番までの欧州での調整など、WOC2023に向けて例年以上に選手たちは自ら計画を立案し努力を重ねてきました。また、スイスの山岳トレインでの開催ということで、トレーニングの“量”に拘り、地域クラブや県協会主催の練習会に積極的に参加させて頂きました。関係された各方面の皆様には厚くお礼申し上げます。

結果は下記の通りです。

ミドルではタイムでの予選通過はならなかったものの、今回は各国最上位の選手(トータル60人まで)に決勝出場が認められ、稲毛選手と伊藤樹選手が決勝に進出しました。

ロングは、男女ともにアジア枠(5月11日時点のワールドランキング アジア最上位)を日本選手が獲得し、国枠の1人と合わせ、2人ずつが出場しました。ロング(決勝)に複数の選手が出場したのは、男子は1993年以来、女子は2005年以来です。4人ともハードなコースを走り切り、稲毛選手は41位、伊藤樹選手は44位と、それぞれ自己最高順位を獲得しました。

COVID-19が収束し過去最多かそれに近い参加国数となったリレーは、女子が20位となり2005年(11位)以降最高の順位となりました。40ヶ国が出場した男子は27位となり、13ヶ国に打ち勝ったのは史上初めてです。

## 成績(抜粋)

### ミドル予選

#### 女子予選1組

1 Hanna Lundberg(SWE)	26:27
15 Patricia Nieke(GER)	34:04
16 稲毛日菜子(日本)	34:52
25 阿部悠(日本)	44:10

#### 女子予選2組

1 Tove Alexandersson(SWE)	24:51
15 Florence Hanauer(FRA)	34:02
29 樋口佳那(日本)	50:38

#### 女子予選3組

1 Simona Aebersold(SUI)	25:27
15 Leonarda Baltina(LAT)	33:47
24 山崎葵(日本)	42:13

### ミドル決勝 女子

1 Tove Alexandersson(SWE)	37:26
2 Natalia Gemperle(SUI)	39:44
3 Hanna Lundberg(SWE)	40:00
47 稲毛日菜子(日本)	1:06:26

### ロング 女子

1 Simona Aebersold(SUI)	1:21:43
2 Tove Alexandersson(SWE)	1:22:14
3 Andrine Benjaminsen(NOR)	1:29:03
47 稲毛日菜子(日本)	1:58:19
64 阿部悠(日本)	2:36:35

### リレー 女子

1 スウェーデン	1:47:26
2 スイス	1:51:54
3 ノルウェー	1:57:25
20 日本 (稲毛日菜子-阿部悠-山崎葵)	2:40:16

### ミドル予選

#### 男子予選1組

1 Joey Hadorn(SUI)	27:46
15 Mathias Peter(AUT)	32:54
22 小牧弘季(日本)	34:44

#### 男子予選2組

1 Albin Ridefelt(SWE)	27:42
15 Vilius Aleliunas(LTU)	33:56
30 永山遼真(日本)	38:39

#### 男子予選3組

1 Matthias Kyburz(SUI)	28:20
15 Mihaly Ormay(HUN)	33:22
20 伊藤樹(日本)	35:29
30 伊藤元春(日本)	41:24

### ミドル決勝 男子

1 Matthias Kyburz(SUI)	38:19
1 Joey Hadorn(SUI)	40:19
3 Jannis Bonek(AUT)	40:26
20 伊藤樹(日本)	53:58

### ロング 男子

1 Kasper H. Fosser(NOR)	1:33:06
2 Matthias Kyburz(SUI)	1:33:57
3 Jannis Bonek(AUT)	1:37:37
44 伊藤樹(日本)	2:01:48
57 小牧弘季(日本)	2:15:56

### リレー 男子

1 スイス	1:57:16
2 フィンランド	1:57:59
3 スウェーデン	1:58:13
27 日本 (小牧弘季-永山遼真-伊藤樹)	2:36:34



稲毛選手



後列左より伊藤(元)、小牧、永山、伊藤(樹)  
前列左より樋口、稲毛、阿部、山崎

写真：強化委員会



WOC2023 Webサイト

## !! 日本のオリエンテーリング史上初 !!

## マスターズMTBO世界大会で加納選手が全4種目でメダル獲得!

2023年5月スロベニアで開催されたWMMTBOC (世界マスターズマウンテンバイクオリエンテーリング選手権大会)にて、W50に出場した加納がW50クラスの全種目でメダルを獲得しました。(マスタート3位、ミドル3位、ロング1位、スプリント2位)

MTBOの女子選手では、日本人初のメダル獲得になりました。  
(JOAニュース2023年7月号で加納選手のコメントを紹介しています。)



左より樋口、加納、羽鳥選手

世界選手権大会では、

嶋岡、阿部の両選手が3種目で40位台獲得。

ジュニアでは綾野選手がマスタート種目で26位に!

なんとトップ比113% !!

2023年8月19日~26日にかけて、MTBO世界選手権大会が、チェコのJicinで開催され、日本からは6名の選手が出場しました。

フィジカル向上の成果、様々なナビゲーション、テクニカル課題に対応した結果が現れました。

初戦スプリントでは、ハイスピードを要求される難度の高いコースに苦戦しつつも、ジュニア綾野選手はまずまずの滑り出し。

ロングでは、MTBOのすべての要素が盛り込まれたタフなコースに全員苦戦しました。その中でも嶋岡選手は非常に良い走りをしたものの序盤のスプリントエリアで痛恨のミスパンチがありました。

続くミドルでは、前の2レースに比べてシンプルなコースだっただけにパワー差や小さなミスの累積でタイムに響くという感触。嶋岡選手、綾野選手はまずまずの良い順位を出していました。

レストデイを挟んで後半はマスタート。一斉スタートで前後の選手の動きを見て対応しつつけるナビ能力に加えて、最もMTBのパワーや技術で差が出る種目。出遅れやミス、パンク等メカトラブルもあり、終始平坦なコースという点でも、差を詰めるには厳しいレース展開でしたが、世界で十分戦えている感触も掴めました。

最終日はリレー。MEに2チーム出走。2チームとも1走はまずまず良い位置で走り2走ヘタッチ、2走はそれぞれの展開ながら3走へつなぐことができました。3走は集団から離されたものの確実にレースをこなし、2チームとも順位をつけることができました。

今回特筆すべきは、元日本代表選手の綾野、森の両氏にチームに帯同してもらったことです。おかげで充実したサポート体制で本戦に臨むことができました。また日下部選手が会場へ応援に来てくれるなど、MTBO JAPANチームを取り巻く環境が向上してきたことを感じさせる遠征でした。

次回のMTBO世界選手権大会はブルガリアで開催予定、個人で30位台、リレーで一桁順位を目指します!

応援よろしくお願いします!

写真: MTBO委員会, World Masters MTBO Championship 2023



綾野選手



嶋岡選手



大類選手

MTBOチームは、一緒にさらなる上を目指す、新たな戦力を求めています。ハイスピードのオリエンテーリングで、今までと違う景色を見てみませんか?



MTBO Japan  
facebook

最新情報はFacebookのMTBO JAPANを参照してください。

体験希望、機材の相談もお気軽にコメントいただければすぐお答えします。

# 2023年度日本学生オリエンテーリング選手権大会

(スプリント・ディスタンス競技部門/ロング・ディスタンス競技部門)

2023年10月14・15日、茨城県笠間市にてインカレスプリント・ロングが開催されました。この日のためにかけつけたOBOG、運営者の方々、地元笠間市の皆様、そしてたくさんのチームメイトの応援に見守られながら、選手たちは笠間の舞台を駆け巡りました。

1日目のインカレスプリントは、絶好のオリエンテーリング日和の秋晴れの中「笠間芸術の森公園」を舞台に開催されました。

男子選手権クラスでは、波多野選手(大阪3)のトップゴールを皮切りに、加藤選手(筑波1)がトップタイムを大きく更新。直後に寺嶋選手(東京農業2)がトップに踊り出るも、最後は橋本選手(神戸高専4)が4年の意地を見せ、見事男子選手権クラスを制しました。

女子選手権クラスでは、福田選手(国際基督教4)がトップゴールを決めると、中盤には木口選手(慶應義塾3)山崎選手(筑波2)がデッドヒートを繰り広げ、秒差の5位・6位入賞を果たします。その後、柴崎選手(新潟4)がトップタイムを更新すると、それを追う羽鳥選手(新潟4)がまさかの同タイムでフィニッシュ。新大同期による劇的な同時優勝を決めました。

2日目のインカレロングの舞台は「笠間城址」。前日とは打って変わってあいにくの大雨となり、途中ハチによるトラブルにも見舞われながらも、運営者の皆様の努力のおかげで開催することができました。

男子選手権クラスでは中盤、森選手(横浜国立2)梶本選手(東京1)の2人が接戦を演じ、森選手が4位入賞、梶本選手も好タイムを決め、1年生ながら6位入賞と新人特別表彰を獲得します。その後、2年越しにインカレに帰ってきた森清選手(筑波3)が競り合いを勝ち抜き3位に入賞。最後は寺嶋選手(東京農業2)が圧倒的なタイムでフィニッシュし、前日の雪辱を果たす優勝を勝ち取りました。

女子選手権クラスでは、序盤から大石選手(新潟4)が好タイムを決めトップゴール、暫定トップを維持し続けます。その後も、落合選手(京都2)桑原選手(横浜国立3)といった実力者が次々と入賞を決めていくと、優勝争いはトップゴールの大石選手とラスト出走となった木口選手(慶應義塾3)の一騎打ちへもつれこみます。最後は木口選手が最速のタイムでフィニッシュし、ロング女子選手権の王座を勝ち取りました。

2023年度日本学連幹事長 市川竣介

## 成績(抜粋)

### スプリント・ディスタンス競技部門

#### ME 3.3km(↑50m)

1	橋本遼佑	0:12:57	神戸高専4
2	寺嶋謙一郎	0:13:24	東京農業大学2
3	加藤賢斗	0:13:46	筑波大学1
4	上妻慶太	0:14:00	横浜国立大学3
5	古角海志	0:14:03	東北大学2
6	根本浩平	0:14:11	東京理科大学3

#### WE 2.9km(↑46m)

1	柴崎愛有	0:14:06	新潟大学4
1	羽鳥夕音	0:14:06	新潟大学4
3	松尾晴乃	0:14:15	神戸大学3
4	落合英那	0:14:28	京都大学2
5	木口瑞穂	0:14:29	慶應義塾大学3
6	山崎葵	0:14:31	筑波大学2

### ロング・ディスタンス競技部門

#### ME 7.5km(↑510m)

1	寺嶋謙一郎	1:14:16	東京農業大学2
2	石原潮人	1:18:57	京都大学3
3	森清星也	1:19:46	筑波大学3
4	森創之介	1:20:07	横浜国立大学2
5	金子隼人	1:21:24	東京大学4
6	梶本和	1:22:24	東京大学1

#### WE 5.2km(↑335m)

1	木口瑞穂	1:06:42	慶應義塾大学3
2	大石遥	1:09:01	新潟大学4
3	落合英那	1:10:44	京都大学2
3	桑原唯歩	1:10:44	横浜国立大学3
5	砂田優萌子	1:14:38	お茶の水女子大学2
6	柴崎愛有	1:16:52	新潟大学4



インカレスプリント・ロング  
Webサイト



写真：木植早生様

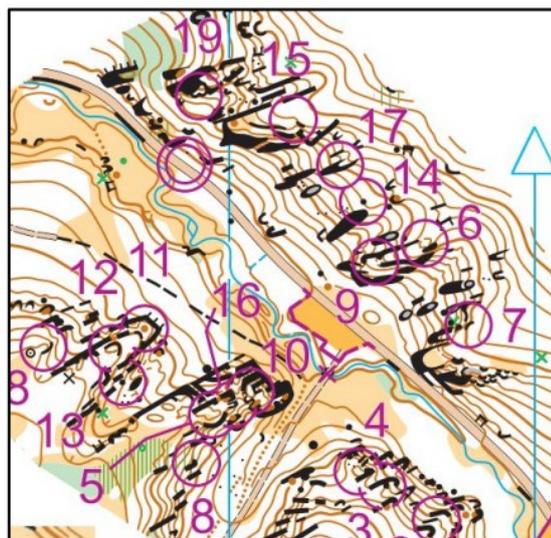
# 2023年トレイルオリエンテーリング世界選手権大会報告

トレイルO委員会

2023年度のトレイルO世界選手権(WTOC)は、7/2~7/6の日程でチェコ北部Zákupyをイベントセンターとして行われた。日程はモデルイベントから始まり、PreO Day 1、同Day 2、リレー、TempOの順であった。それに先立つ6/30と7/1にはWREイベントとしてプレ大会が開催されており、日本チームのメンバーはプレ大会に合わせてチェコ入りし、プレ大会を使って調整したのち本戦へと臨んだ。

全体として岩や岩崖の多いトレインで、点状の岩などのほか、日本ではあまり見られない10mを超える高さの石柱や岩崖も課題として組み込まれた。層状に折り重なった岩崖の読み取りもしばしば求められ、本大会に特徴的な要素となった。

最初に行われたPreOはDay 1とDay 2の二日に分けて争われた。キャンセルとなったコントロールを除くと合計で68コントロールとタイムコントロール4か所が設定された。近年の傾向としてコース距離を短くし、短い距離にコントロールを多く設定する傾向があるが、これは本年も同様で、短いコース距離に多くのコントロールが詰まったコースが提供された。また両日ともコースが数パートに分割されており、パート間のリフレッシュを含めた集中力の持続や、制限時間の配分にも気を使うコースとなっていた。日本チームでは伴が59位で最高順位であった。



PreO Day 2

## PreO 成績

順位	氏名	Day 1	Day 2	合計
1位	Arno Grønhovd (NOR)	36点+97秒	31点+100秒	67点+197秒
59位	伴 毅	30点+121秒	27点+181秒	57点+302秒
73位	小泉 辰喜	28点+185秒	25点+227秒	53点+412秒
95位	鈴木 規弘	22点+228秒	23点 325秒	45点+553秒
	山口 拓也	31点+287秒	欠場	

次に行われたリレーは制限時間を3人のチームで共有し、それぞれが与えられたコースを解くスタイルである。コースは一人あたり10コントロールとTempOステーション1か所で、3走のみ最後にもう1か所TempOステーションが追加される構成であった。10個のコントロールは5個ずつの2か所に分割されており、それぞれ狭い範囲からフラッグを見る課題が与えられた。比較的見る場所からフラッグが近い課題が多かったが、コントロールによって難易度の差が大きく、いかに難度の高いコントロールに時間を配分できるかも鍵となるコースであった。日本チームは2走の小泉が全問正解と好調であったがチームとしては14位であった。

## リレー 成績

順位	チーム	成績	選手	PreO	TempO 1	TempO 2
1位	ドイツ	193秒				
14位	日本	670秒	伴 毅	-3 (180秒)	75秒	
			小泉 辰喜	-0 (0秒)	64秒	
			岩田 健太郎	-3 (180秒)	82秒	89秒

最後に行われたTempOは午前の予選と午後の決勝から成り、予選では参加者は2ヒートに分けられ、それぞれ上位18名に入った選手が決勝に進む形式であった。

予選は6ステーションで、一般的な地形を課題としたステーションもあったが、複雑な岩崖の形を短い時間でいかに読み取れるかが試されるステーションが特徴的だった。決勝は8ステーションのうち6ステーションがフォレストに設けられた一方、最後の2ステーションはイベントセンターに近い公園に設けられていた。フォレスト部分を終了した選手がバスで移動し、観衆の見守る中で最後の2ステーションが行われ、演出にも力が入った大会であった。日本チームからは平山、岩田の2名が予選を勝ち抜いて決勝へ進み、それぞれ19位と31位の成績を残した。

今回は入賞などの大きな結果には繋がらなかったものの、TempOでは過去続いてきた決勝進出を継続し2名が決勝へ進むなど、コロナ禍を経て普及したオンラインによるトレーニングの成果も感じさせられた。以降は世界選手権とヨーロッパ選手権がそれぞれ隔年開催となり交互に開かれる形となり、2024年度はフィンランドでヨーロッパ選手権が開催される。日本チームには正式順位はつかないが、世界選手権と同じ気持ちで参加し、強豪国との距離を縮めていきたい。

## TempO予選 成績

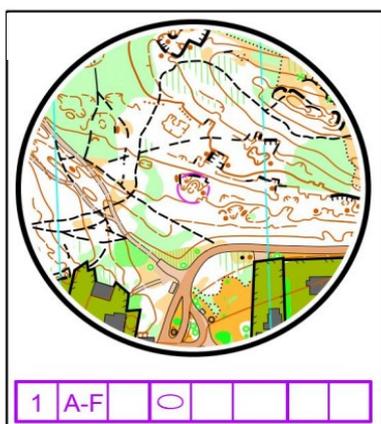
ヒートA			ヒートB		
1位	Antti Rusanen (FIN)	250秒	1位	Robertas Stankevič (LTU)	289秒
5位	平山 遼太	349秒	16位	岩田 健太郎	454秒
35位	伴 毅	615秒	27位	茅野 耕治	553秒

## TempO決勝 成績

1位	Ondřej Macek(CZE)	270秒
19位	平山 遼太	528秒
31位	岩田 健太郎	661.5秒



WTC2023 Webサイト



TempO 予選

### 選手

伴 毅	京都OLC	PreO, TempO, リレー
鈴木 規弘	多摩OL	PreO
山口 拓也	浜松OLC	PreO
小泉 辰喜	東京OLクラブ	PreO, リレー
平山 遼太	千葉OLK/GROK	TempO
茅野 耕治	ワンダラーズ	TempO
岩田 健太郎	つるまいOLC	TempO, リレー
オフィシャル		
荒井 正敏	多摩OL	

## JOAからのお知らせ

### 2024年度全日本大会(ミドル/ロングディスタンス競技部門)開催予告

全日本大会実行委員会

2024年度の全日本大会(ミドル/ロングディスタンス競技部門)を下記の通り開催予定です。

詳細はJOAホームページにてご確認ください。

主催者:公益社団法人 日本オリエンテーリング協会

共催者:岐阜県オリエンテーリング協会

開催地:岐阜県恵那市中野方町笠置山北山麓付近

※『望郷の森』(2019年3月「日本学生オリエンテーリング選手権」

開催 以降2019年9月、2021年10月リメイク)

2024年10月19日(土)ミドル・ディスタンス競技部門

2024年10月20日(日)ロング・ディスタンス競技部門

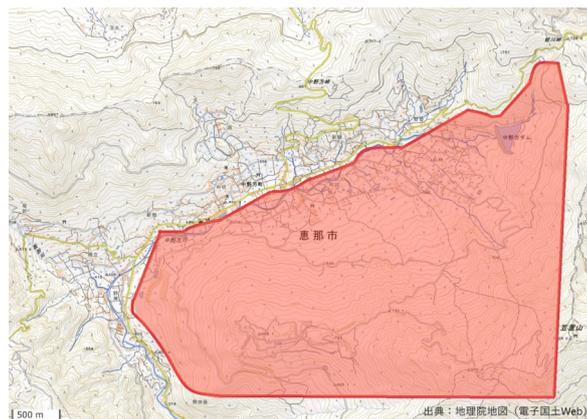
(※両日ともにWorld Ranking Eventを予定)

本競技の開催に伴い、大会当日まで、右記彩色した範囲へのオリエンテーリング目的での立ち入りを禁止とします。

問い合わせ先: [ajoc@orienteering.or.jp](mailto:ajoc@orienteering.or.jp)



お知らせのページ



国土地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/>) を加工して作成

# WOW(世界オリエンテーリング週間)にイベントを登録しましょう

国際委員会

IOF(国際オリエンテーリング連盟)では、2016年から、5月中旬の水曜日をWOD:World Orienteering Day(世界オリエンテーリングの日)として、世界各地におけるオリエンテーリングの普及・拡大を目的としたプロモーションを行ってきました。この期間に開催されたオリエンテーリングイベントへの参加者数を集計し、普及への機運を高めてきました。

2024年は、WOW:World Orienteering Week(世界オリエンテーリング週間)に名称を改め、5月18日(土)から26日(日)までに開催されるオリエンテーリングイベントが対象となります。

イベントの種類は、本格的なフォレストのコースから、迷路のようなMAZE-Oやクラブの練習会まで、幅広く登録可能です。参加者数を集計して報告する必要がありますが、世界的な一大イベントであるWOWに、皆さんの活動を、是非ご登録下さい。(WOWロゴを地図等に印刷できます)



WOW Webサイト

## アジア・オリエンテーリング選手権大会(AsOC2024)

国際委員会

2023年は、AsJYOC(アジアジュニア・ユースオリエンテーリング選手権大会)が香港にて開催されましたが、2024年は、12月24日(火)から30日(月)にかけて、AsOC(アジアオリエンテーリング選手権大会)がタイ チェンマイにて開催されます。

選手権クラスだけでなく、全ての年齢別クラスを含んだ大会です。関西空港からは直行便も運航されています。皆様、是非ご参加下さい。



## アジアジュニア・ユース選手権大会(AsJYOC2025) 日本開催決定

地域活性化委員会

2025年にアジアジュニア・ユース選手権大会(AsJYOC2025)が日本で開催されることに決まりました。この年の11月にはデフリンピックも東京都で開催予定であり大きな年になります。

開催地:愛知県設楽町

開催期間:2025年8月26日(土)-31日(日)

競技種目:スプリント、ミドル、スプリントリレー

戸上直哉さん・麻美さん(一般社団法人コライフ)、伊藤樹さんらによる設楽町でのオリエンテーリングを用いた地域活性化の取り組みはJOAニュース2022年1月号でも紹介したとおりです。その後もさらに地元との連帯を深め「したらオリエンテーリングフェスタ」などのイベント開催を継続し、この度アジアジュニア・ユース選手権大会2025の誘致にも成功しました。

ますます盛り上がるオリエンテーリングのまち設楽町！！

☆2024年5月18-19日開催予定「奥三河ほうらいせん2days」が設楽町ふるさと納税返礼品予定

☆2024年10月12-14日「したらオリフェス 3days」でパワーアップし開催

☆2025年 8月26-31日 AsJYOC2025 & 8月29-31日 設楽町合併20周年記念イベント 開催

☆設楽町の地域おこし協力隊若干名募集中!! オリエンテーリングの方ぜひ!! (詳しくは戸上まで)

皆さま、いつも応援ありがとうございます!! 設楽町の戸上です!

設楽町では素晴らしいフィールド、関谷醸造さんの日本酒、ブランド絹姫サーモン、段戸牛や高原野菜、美味しい物がたくさん待っています!

2024年、2025年はオリエンテーリングのイベントがたくさんありますので、ぜひ奮ってご参加ください! 町民一同お待ちしております!

☆AsJYOC2025運営者募集中です!! 色んな方との出会い・新しい世界・運営者限定の盛大な交流会・達成感を一緒に体験しませんか?



ご協力いただいた運営スタッフの皆さん  
後列中央が戸上直哉さんと麻美さん

# 勝浦大楠 2023

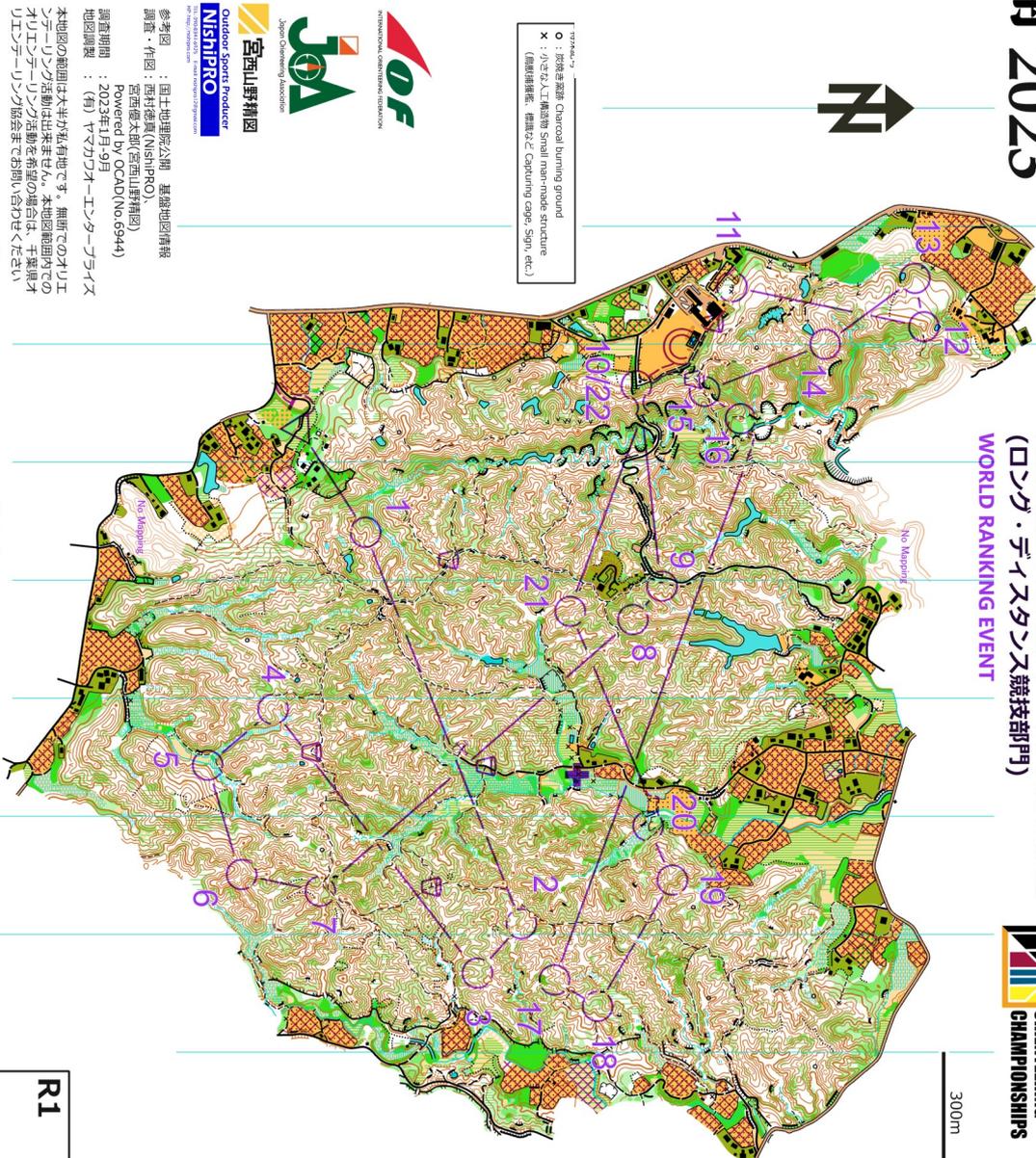
千葉県勝浦市

2023年11月5日(日)  
第50回全日本オリエンテーリング選手権大会  
(ロング・ディスタンス競技部門)  
WORLD RANKING EVENT



縮尺 1:15000  
等高線間隔 5m  
Contour interval  
ISOM2017-2準拠

JOC2023 Long Distance			
M21E			
1	10.3 km	680 m	
▽	■	□	△
1	96	1	1
2	97	1	1
3	98	1	1
4	99	2	1
5	100	2	1
6	204	1	1
7	101	1	1
8	92	25	1
9	203	1	1
10	179	1	1
○	310 m	→	
11	95	1	1
12	102	1	1
13	103	1	1
14	91	1	1
15	201	2	1
16	104	3	1
○	80 m	→	
17	105	1	1
18	106	1	1
19	107	1	1
20	202	1	1
○	120 m	→	
21	108	1	1
22	179	1	1
○	160 m	→	



Legend:  
○ : 控地 主要道路、Charcoal burning ground  
X : 小径人、工機建築物 Small man-made structure (簡易構造物、簡易な Coping edge, Sign, etc.)

Produced by:  
JOC  
International Orienteering Federation  
Outdoor Sports Producer  
NishiPRO  
参考図 : 国土地理院公開 基礎地図情報  
調査・作図 : 西村泰真 (NishiPRO), 宮西健太郎 (宮西山野精図)  
調査期間 : 2023年11月-9月  
地図制作 : (有) ヤマカワオーエンターテインズ  
Powered by OCAD(No.6944)  
本地図の範囲は大半が私有地です。無断でのオリエンテーリング活動は出来ません。本地図範囲内でのオリエンテーリング活動を希望の場合は、千葉県オリエンテーリング協会までお問い合わせください。  
Copyright 2023, 千葉県オリエンテーリング協会

R1	R2	R3
----	----	----



無断で本大会の地図を利用したオリエンテーリング、またはそれに類する活動を行うことを禁止します。